

## 平成 30 年度第 2 回長崎市総合教育会議 会議録

- 1 日 時 平成 30 年 9 月 20 日（木） 9 時 30 分～10 時 56 分
- 2 場 所 第二応接室（市役所本館 3 階）
- 3 出席者 **【市長】**  
田上市長  
**【教育委員会】**  
橋田教育長、中西委員、坂本委員、小原委員、吉松委員、野本委員
- 4 事務局 **【市長部局】**  
企画財政部長、企画財政部政策監、都市経営室長  
同室主幹、同室係長  
こどもみらい課長、産業雇用政策課雇用促進係長  
**【教育委員会事務局】**  
教育総務部長、総務課長、同課課長補佐、同課総務係長、同課主任  
学校教育部長、同部学校教育課長、生徒指導係長、同課指導主事
- 5 次 第  
(1) 開会  
(2) 内容  
①意見交換事項 キャリア教育について  
②その他  
(3) 閉会

6 議 事 以下のとおり

事務局 (市長部局)	<b>【9：30 開会】</b> ただいまから、平成 30 年度第 2 回長崎市総合教育会議を開催いたします。お手元に配付しております次第に沿って、市長から進めさせていただきます。
市長	では、早速今回の内容に入りたいと思います。まず、意見交換事項のキャリア教育です。前回の 3 月と前々回の 6 月に皆さんからご意見、ご

<p>事務局 (市長部局)</p>	<p>議論いただいて、意見交換を行ってきました。その中で、キャリア教育という言葉から始まったんですけれども、内容的には少しずつ長崎市版の方に重きが行って、今、どういうことをした方がいい時期なのかということみなさんからいろんなご意見を伺ってきました。今日はそういう意味では、方向をこれまでの議論を踏まえて少し固めていく会議になると思います。これまでの総合教育会議での長崎市版キャリア教育の議論のまとめ（方向性）について事務局から説明をお願いします。</p> <p>それでは、長崎市版キャリア教育について説明いたします。</p> <p>資料は1ページです。キャリア教育につきましては、これまで2回の会議で意見交換を行っておりますが、平成29年度第2回の会議では、教育委員会が取り組んでいるキャリア教育推進事業や商工部が取り組んでいる「若年者雇用に向けた取組み」、まちに関心を持つ取組みとして「長崎LOVERS」について説明し、委員の方から宮崎県日向市の「よのなか教室」の取組みについてご紹介いただきました。</p> <p>その後の意見交換の中で、様々な意見がありましたが、長崎の教育大綱をはじめとする全体の中で、キャリア教育をどのように位置づけていくかを、整理していくこととしました。</p> <p>次に、今年度の第1回の会議では、平成29年度第2回の会議を受けまして、幅広い意味でのキャリア教育について、これまで市長部局、教育委員会で取り組んでいる事業、市長部局延44事業、教育委員会延30事業を項目ごとに紹介し、意見交換をしました。</p> <p>会議の中では、資料2ページに掲載しているような意見が出されましたが、「長崎市版キャリア教育」は、一般的なキャリア教育である職業の力をつける（職業的自立）、就職に関するものだけでなく、教育大綱の基本理念であります「長崎の未来を創るひとづくり＝まち（社会）を支えるく当事者＞を育てる」につながるものが幅広くキャリア教育の対象になるのではないかという意見が多かったところです。</p> <p>資料1ページが、これまでの会議内容を踏まえまして、総合教育会議における長崎市版キャリア教育の考え方（案）をまとめものです。</p> <p>まず、長崎市版キャリア教育を考えるに当たっては、「長崎市教育大綱」の基本理念を根幹に置くべきであると考えますので、1番上に「長崎市教育大綱」を記載しました。</p> <p>基本理念の「長崎の未来を創るひとづくり」とめざすべきすがたの太文字で記載しています「1心身ともに充実し、自ら学び、考え、挑戦するひと」「3長崎を愛する心を持ち、世界に貢献するひと」「5地域を支え、未</p>
-----------------------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

<p>市長</p>	<p>来へつなぐひと」は、これまでの会議で出た意見の方向性と同じであると思います。</p> <p>次に、「中央教育審議会」、「新学習指導要領」における「キャリア教育の定義」を記載しております。</p> <p>中央教育審議会の答申では、キャリア教育を1人1人の社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる能力や態度を育てることを通して、キャリア発達を促す教育とされており、新学習指導要領では、キャリア教育の定義を「児童・生徒が、学ぶことと自己の将来とのつながりを見通しながら、社会的・職業的自立に向けて必要な基盤となる資質・能力を身に付けていくことができるよう、特別活動を要としつつ各教科等の特質に応じて行う教育」とされています。</p> <p>「長崎市版キャリア教育」は、中教審や新学習指導要領で位置づけられているキャリア教育より幅広く、また、長崎市教育大綱の考え方を踏まえていること。</p> <p>また、キーワードとしては、前回の会議における委員のみなさんの発言内容から、「「当事者」を育てる」「学校、家庭、地域」「世界を学ぶ」「長崎のまちを愛する」などが挙がっていたと考えております。</p> <p>これらを踏まえ、事務局といたしましては、総合教育会議における長崎市版キャリア教育の考え方を、資料1番下に記載のとおり、「長崎のまち（社会）を支える「当事者」を育てていくため、学校、家庭、地域が一体となって、児童・生徒に様々な世界を学ぶ機会を提供することにより、児童・生徒が社会的・職業的自立に向けて必要な基盤となる資質・能力を身につけるとともに、グローバルな視点を持ち、長崎のまちを愛する気持ちを養う教育」とまとめました。</p> <p>事務局が取りまとめましたこの長崎市版キャリア教育の考え方（案）について、ご意見をいただきたいと思っております。説明は以上でございます。</p> <p>これまでの議論のおさらいとそれを踏まえた中で、長崎市版キャリア教育の基本的な考え方をこういうふうにしたらどうだろうかというまとめ（方向性）の案が事務局から説明がありました。</p> <p>いわゆるキャリア教育の部分と、ふるさと教育のような部分といろいろな議論で出てくる中で、最終的に行き着いたところは長崎市の教育大綱にしっかりと立脚した形のなかで、いわゆるキャリア教育とも違う、ふるさと教育とも違うというところにたどり着いてきたような気がします。そういう部分をまとめたという案を今提示があったわけですが、これについて1ページの一番下の部分についてこういうまとめ方、</p>
-----------	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

<p>委員</p>	<p>表現でいいか等についてご意見をいただければと思います。</p> <p>方向性の2行目の児童・生徒に様々な世界を学ぶ機会を提供するという事は非常に大事な事だと思います。</p> <p>学校だけでは様々な機会を提供することは非常に難しいところですので、地域そして家庭でいろんな体験をさせて一丸となってこんな生き方があるんだよ、こんな人達がいるんだよということをたくさん学ばせていくということが大事だと思います。その際に、子どもたちに求められる資質というのは、市の教育大綱の一番上にあります「自ら学び、考え、挑戦する」という力が大事になってくると思います。自ら考えるというのは、学校教育の中で考える力を育むのは当然なんですけれども、私は、幼少期、幼児教育から子どもたちに選択肢を与えて自分で考えて決定するという事を日常的に幼児教育や家庭の子育ての中でしていくことで、子どもが自分で考えて選択していく資質が身に付いていけば、いろんな世界を見せてもらった時に、自分はこんなふうにしたいというふうに、自分の意思で自分の人生を決定していく力を身に付けて行くことができるのではないかと考えていますので、幼児教育、家庭教育から地域社会一体となって様々な世界を子どもたちに提供できればいいなと思います。</p>
<p>委員</p>	<p>関連して、様々な世界というのは大きいなとちょっと感じて、地域的な地理的な世界にイメージが行かないように。今おっしゃったように、生き方や世界を学ぶみたいな世界の意味付けを少しこういう世界だということがわかるといいなと思います。</p>
<p>教育長</p>	<p>キャリア教育で今まで議論していただいて、その中で大事だなと思うのは、先ほどご意見のあった自ら考えるということと、当事者を育てるところで、今年の全国学力・学習状況調査の中で、地域でボランティア活動をしたことがあるというのがかなり上だったんです。地域や社会のために自分に何が出来るかということを考えてことがありますかということに関しては、全国平均よりも劣っているというような結果が出ていたので、自分で考える、当事者となって考えるということが重要なかなと感じています。</p>
<p>委員</p>	<p>中央教育審議会のキャリア教育の定義を見ると、いまひとつキャリア教育の目的のようところがあまりちゃんとなっていないと思うんです</p>

	<p>が、今回の長崎市版だと長崎のまちを支える当事者を育てていくためという目的がはっきりしていて、しかもそれが教育大綱の基本理念のところにつながっているという意味でも長崎市版としていいんじゃないかというふうに思っています。あと、グローバルというのは一般的な言葉ですか。</p>
市 長	<p>グローバルと聞いた時にこれは何ですかというのがあるかもしれないですね。わかりにくさがありますね。</p>
委 員	<p>逆にみなさんにお尋ねしたいんですが、様々な世界の中に包含されてしまうのかもしれないんですけど、さまざまな価値観というと非常に多様化してきていると思うんですけど、そういうものはこの様々な世界と先ほど委員がおっしゃった生き方という中に包含されていくのであればいいのかなと。</p>
市 長	<p>先ほどご指摘の「世界」だけでは伝わらないんじゃないかというのがありますよね。その時に様々な価値観や生き方を学ぶという言い方がありますか。</p> <p>当事者になるということは自分の生き方を決めるということでもあるので、そういう意味では、こういう世界を学ぶだけではなくて、いろいろな価値観や生き方があるということ学ぶということと結びつくのかもしれないですね。</p> <p>そこは、「世界」を「価値観」へ書き換えるということによろしいですか。</p>
委 員	<p>当事者という言葉が、小学生、中学生、一般に保護者の皆さんにわかりやすいイメージの言葉がないのかなと。長崎らしい当事者の表現がないのかと考えていたんですけど。</p> <p>それが結局長崎のまちを愛する自立したという言葉なんでしょうけど。</p>
市 長	<p>そういう意味では、まちを支えるメンバーを育てていくような感じのイメージですよね。全員がメンバーなんだという意識を持って。だから自分も責任もあるし、貢献もできるという。内容的にいうとそんな感じなんだろうなと。</p>

市 長	他に何か当事者に代わるアイデアはありませんか。 当事者という言い方は、「評論家じゃないよ」、「傍観者でもないよ」そういう意味の当事者ですね。
委 員	そういう意味では当事者という言葉がわかりやすいのでしょうか。
委 員	「主役」だと狭くなりますかね。
市 長	事務局からもいい案があったら。
委 員	少なくとも当事者じゃない方がいいような気がしますね。
事 務 局 (市長部局)	条例のときにもこれについて問題になったんですが、まちを支える一員とすれば、そこまでが当事者なんです。長崎のまちを支える当事者だけが今カッコになってるんですけども、「まちを支える一員」というとそれがイコール当事者になるという議論を一回したことがあります。それでそのように書いたんですけど。 一人とか。人材。
市 長	もうシンプルに人材とかという言い方もあるのかもしれないですね。こういう人材を育てていくんだという。
委 員	ながさきのまちを支える意識を持った人材。
市 長	そういう意味で、私が一つ気になるのは、最後の4行目のところの終わり方が「長崎のまちを愛する気持ちを養う教育」とあるんですけども、愛する気持ちだけではなくて、それを行動に移していくという部分が入らないと当事者にならないんじゃないかなという感じがしますね。
市 長	担い手という言い方もいいですね。
委 員	それはいいですね。
市 長	長崎のまちを支える担い手。あなたの肩にかかっています。 世界のところを価値観に変えて、最後のところをここも何か案があれば。

委員	<p>長崎のまちを愛する気持ちとそれを行動に移す力を養う教育。</p> <p>並列すればそうなりますね。</p>
委員	<p>教育大綱の最初に長崎の未来をつくるひと。そこを持ってきたりして、長崎のまちをつくる気持ち、そんなフレーズを持ってきてもいいかなと思います。</p>
委員	<p>先ほど市長がおっしゃったことがストーンと腑に落ちたんですけど。まちを愛する気持ち、それを行動に移す力を養う教育。</p>
委員	<p>それに尽きるんですよ。</p>
市長	<p>そういう表現でいいでしょうか。あとグローバル。世界的な視点のグローバルと、地域のローカル。かつこしてグローバルアンドローカルとしましょうか。</p>
委員	<p>この言葉に引っかかるから、逆にグローバルがいいかもしれません。外（そと）「グローバル」と身近なところ両方がないといけないよという意味を説明しないとイケないの。</p>
事務局 (市長部局)	<p>2 ページ目に前回の委員等からの発言の真ん中あたりに書いていますが、シンクグローバリー、アクトローカリーという下の方の説明で地球規模で考えて、足元から行動するという意味合いで、これを一言で言うならグローバルかなという感じで今回こちらを使わせていただいた。</p>
教育長	<p>一般的ではないかもしれませんが、いろんなキャッチフレーズとかありますよね。</p>
委員	<p>青年会議所で活動していた頃は常にこの言葉は使ってたんです。</p>
市長	<p>長崎の場合は特にこれが生きるまちだから、それは活かさないといけませんね。</p>
市長	<p>では、あえてグローバルということにしましょうか。文章のつながりで、2行目の終わりから「児童・生徒が社会的・職業的自立に向けて必</p>

<p>委員</p>	<p>要な基盤となる資質・能力を身に付けるとともに、グローバルな視点を持ち、長崎のまちを愛し、それを行動に移す力を養う教育」という表現になっているんですが、グローバルの視点のところは、必要となる資質・能力やグローバルな視点を身に付けるとともにとか、そこまで身に付けることにして、グローバルな視点を持ちという部分がちょっと納まりが悪いような気がしないでもないんですけども。</p> <p>機会を提供することで、そういう資質・能力とグローバルな視点を身に付けてもらって長崎を愛する気持ちと行動する力にそれをつなげてもらうという流れかなという気がするんですけどね。</p> <p>グローバルな視点を持ち、「持ち」というのがどこにかかるんですかね。そこがちょっとわからない。</p> <p>やっぱり機会を提供することでグローバルな視点を身に付けるということでもいいのかなという気がするんですけど。いかがですか。</p> <p>身に付けるの方にグローバルをつけるということでもいいですか。</p> <p>(了承)</p>
<p>市長</p>	<p>それでは、そういう並べ方に変えて、ちょっとこれはまた今のいただいた意見を基に少し整理してみたいと思います。</p> <p>今のお話があった分を読むと、「長崎のまち（社会）を支える担い手を育てていくため、学校、家庭、地域が一体となって、児童・生徒に様々な価値観や生き方を学ぶ機会を提供することにより、児童・生徒が社会的・職業的自立に向けて必要な基盤となる資質・能力やグローバルな視点を身に付けるとともに、長崎のまちを愛する気持ちと、それを行動に移す力を養う教育」でよろしいでしょうか。</p>
<p>委員</p>	<p>(了承)</p> <p>では、次に移りたいと思います。</p> <p>次は、具体的にどういうことをしているんだという部分について、前回、市長部局と教育委員会のキャリア教育に関する取組みということで、事務局から説明をしてもらいましたが、それを見中でもまた外からの視点が要るんじゃないかとかといったご意見も出てきてそれを取り入れたという流れがありました。それで、今回そういった議論を更に踏まえた中で、再度長崎市版キャリア教育に対する具体的な取組みについて事務局でまとめていますので、説明をお願いしたいと思います。</p>



<p>事務局 (市長部局)</p>	<p>それでは、市長部局における「長崎市版キャリア教育に関する具体的な取組みについて説明いたします。</p> <p>資料は3ページです。先程ご議論いただきました「総合教育会議における長崎市版キャリア教育の考え方」を図示したものでございまして、これまでの会議でも提出しておりましたが、これまでの議論を踏まえ修正を重ね、再度提出いたしました。</p> <p>一番下の「長崎市よかまちづくり基本条例」、「長崎市教育大綱の基本理念」をベースとして、学校、家庭、地域が一体となって、こどもたちが「まちを知る」から「外の世界を知る」までの様々な生き方や価値観を学ぶことにより、一番上の目的であります「長崎のまちを愛する気持ちと、それを行動に移して、まちを支える担い手を育てる」につなげていこうとしたものを表しております。</p> <p>その具体的な取組みが「具体的な取組事例」に記載している事業であります。</p> <p>資料5ページをご覧ください。市長部局の取組みですが、「まちを知る」取組みとして、「平和学習発表会開催事業」「長崎学調査研究」ですが、それぞれ平和学習の成果発表や長崎学児童研究コンクールを通して、被爆地長崎のまち、長崎のまちの歴史を知ることにつながる事業です。</p> <p>次に、「しくみを知る」取組みとして、「小学校社会科副読本「くらしとリサイクルの製作・配付」「学校における模擬選挙」ですが、環境教育の補助教材「くらしとリサイクル」を使ってごみ処理に関する学習をしたり、模擬選挙を実施することで、リサイクルのしくみや政治・選挙の意義やしくみなど社会のしくみを知ることにつながる事業です。</p> <p>次に、「人を知る」取組みとして、「放課後子ども教育推進事業」ですが、小学校区において、放課後又は週末等に小学校等を使用し、地域と学校が連携・協力して、学習や様々な体験・交流を通じて、地域や地域住民を知ることにつながる事業です。</p> <p>次に、「生活する力をつける（社会的自立）」の取組みとして、「消費生活出前講座」、「長崎市子ども農山漁村交流体験」ですが、中学生の生徒が消費者契約などに関する出前講座を受けることにより、正しい消費行動を身に付けることにつながったり、グリーンツーリズムの体験を通じて、豊かな人間性を育むとともに、生活する力をつけることにつながる事業です。</p> <p>次に、「職業の力をつける（職業的自立）」の取組みとして、「地場企業知名度アップ促進事業」ですが、地元企業を紹介する番組を制作し、そのDVDを配付することにより、長崎の企業を知る機会につながる事業です。</p>
-----------------------	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

<p>事務局 (教育委員会)</p>	<p>資料6ページをご覧ください。「力を合わせる体験をする」取組みとして、「こども演劇体験教室」ですが、子どもたちが演劇だけでなく、衣装や小道具作りから稽古までを行い、最後は発表会まで行う演劇体験事業を通じて、力を合わせる体験につながる事業です。</p> <p>最後に「外の世界を知る」取組みとして、「子どもゆめ体験事業」「ラグビーワールドカップキャンプ誘致の取組み」ですが、姉妹都市や市民友好都市、スコットランドを訪問する機会を通して、まさに外の世界を知る事業です。</p> <p>以上、市長部局の取組みですが、それぞれの事業は他の項目にも効果があると思われませんが、今回は最も効果があると思われる項目にしぼって掲載させていただいております。説明は以上です。</p> <p>教育委員会が進めておりますキャリア教育推進事業については、各学校の授業におけるキャリア教育の展開がそのほとんどですので、学習指導要領の中にあります学びと自分の生き方をつなげながら、そして、社会的職業的自立を促していくといったものを基本にしつつ、この長崎市のキャリア教育のイメージ図にあります長崎のまちを愛する気持ちを養い、まちを支える当事者を育てるための取組みになるように工夫を図っております。基本的にはどの事業も人とか物とか物事との出会いを通して子どもたちの夢とかあこがれを高めてそしてそれを志へと変えて行くような事業展開になっております。当事者としての意識、私が変わるとか、私がつくるとかといったような意識を高めていくために、どの事業も体験とか、発見というものに終わらせずに、発信とかそして交流というものと結びつけていきながら子どもたちの当事者意識それから主体性の意識を応援しているところです。私がという意識を応援できるようなプロジェクトになればという思いで工夫を図っております。</p> <p>それでは、資料の9ページからそれぞれのカテゴリー別に説明をさせていただきます。どの事業も住み分けが難しく重なり合う事業が多いんですけども、まずはまちを知るところで、長崎の宝発見発信学習推進事業、そして宿泊体験推進事業を展開しております。長崎の宝発見では歴史とか世界遺産等について学習する活動を通して長崎の良さを実感して、長崎が持つ世界的な価値を発信できる児童生徒の育成を目指しています。宿泊体験推進事業につきましては、茂木地区の農家や水産業などの協働により、長崎ならではの農業、水産に対する体験を行っています。これも振り返り学習によって、その良さを今後どのようにつなげていくかとか、自分の生き方と重ねていくかといったような展開の</p>
------------------------	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

学習も充実させているところです。

それから2つ目のしくみを知るところですが、まずは弁護士による法教育ということで、弁護士による法教育を実施し、法を正しく理解して社会の中での自分の生き方を果たしながら自分の生き方の実現につなげていくといった事業展開を図っています。また、模擬選挙では実際に各学校の生徒会役員選挙などで本物の投票箱を用い、選挙のしくみを知り主権者教育につなげていくという工夫を図っています。

3つ目の人を知るについて、キャリア教育講師の派遣ということで、地元長崎で活躍している様々な職業にある専門家の方々に職業講話を行っていただき、まずはその中で、長崎で活躍する職業人との出会いであこがれ心を高めていきたいといった事業展開を図っています。また、いわき市や国立市との平和学習交流を行っています。それぞれの市での取組みの紹介、相互理解というところもありますが、特にいわき市とのリーダー研修会ではそれぞれの各市でのリーダー育成に係る中心となっている子どもたちの交流になりますので、日頃の各学校でのリーダーとして活躍する中での喜びや悩みについての意見交換を行う中で、リーダー性の向上を図っていくという取組みになっています。

4つ目の社会的自立を図る生活する力をつけるについて、今年度の中学生議会においては、特に未来のまちづくりということをテーマにしながら、この中学生議会の学びが学校での生活につながり、そして社会での参画する意欲に高まるようにそのようなテーマを用いて工夫を図ってみました。また、弁護士による法教育については先ほど述べたとおり自分らしい生き方に法を正しく理解する知識を持ってつなげていきたいという取組みです。

それから、職業的自立については、宿泊体験推進事業やキャリア教育講習の派遣を入れています。宿泊体験推進事業については、特に農業、水産等の体験を行いながら今までできなかったことができるようになったといったような子どもたちの思いを高めていきたいというような事業を行っています。

10ページになります。力を合わせる体験をするについて、ここでの宿泊体験推進事業では何より2泊3日という宿泊体験を行う中で、仲間と協働することの喜びが実感できるような宿泊体験事業の意味を持つということでここに掲載しています。また、市立学校間のふれあい交流ということで、規模の違う、ごく小規模校や中規模校、大規模校との子どもたちのふれあいにより、それぞれの生徒会活動等の運営方法の違いや、規模によらない共通点など捉えながら人間関係力やコミュニケーション

<p>事務局 (市長部局)</p>	<p>能力の向上を図っていきたいと思っています。</p> <p>最後の、外の世界を知るについて、平和教育をまずもって挙げています。長崎原爆被爆のみならず広島原爆被爆についてや、核兵器開発、それから世界の平和についての情報を掲載したテキスト等を使いながら、多面的・多角的に平和を見つめさせて、国際協調の精神を育てていくような工夫を図っています。</p> <p>国際理解教育推進では、ハローイングリッシュ活動や国際交流イベントそして、外国からの観光客に中学生が道案内を行いながら、おもてなしの心を育む英語寺子屋教室などにより国際社会を生き抜く人材の育成を図っています。</p> <p>それぞれの学校の中で行いますキャリア教育の支援や充実を図るための展開になっておりますが、必ずや長崎の未来をつくる当事者を育てるという事業にもつながっていくものと信じて展開を図っているところであります。説明は以上です。</p> <p>資料 11 ページに地域での取組みを記載しています。</p> <p>この取組み一つひとつを説明するというよりも、地域でどんなことが起こっているか説明させていただきます。</p> <p>まず、子どもたちの人材育成で地域というと皆さんの頭に浮かぶのが、「くんち」今やっているおくんちや地域のペーロンなど、これは大人たちがするところを、手を引かれて一緒に歩くところから次は鐘や太鼓をたたくぞ、そして、船を曳くぞみたいところで、かなりの人材育成になっているんじゃないかというふうに思われます。やっぱり、まちくんち、さとくんち、ペーロンとどの地域でもそういうものに携わっておりまして、そこは教育の場だということは考えずともそのようになっている現実がございます。その中で、私が 11 ページから載せている地域の取組みの一例でございますが、長崎市では今、地域コミュニティのしくみづくりということで、地域の中で、自分の地域は自分たちで考えて、それこそ当事者ですね、自分たちで考えて自分たちで課題を解決していくというのが一番早いし、近道だし、それから、痒い所に手が届く、そういう自立した地域をつくりましょうということで、各連合自治会、小学校区で 69～77 あるんですけども、その地域でコミュニティのしくみづくりをしています。その中で、やっぱり地域の中で、当事者を増やすというのは、たくさんの方々に集ってもらって、自分の地域のことを考えてもらうというワークショップから入っています。少なくとも 4 回から 5 回のワークショップを開きまして、そこに小学生、中学生、時に</p>
-----------------------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

<p>市長</p>	<p>は幼児がお母さんと一緒に来ます。その中で出てくる意見というのは、「まちのことを私たちもこうやって話してみたかった。」とか、「まちのイベントが少ない。」とか、まちのイベントが少ないということについては、大人はこんなにイベントをやっているのにと言うんですけど、自分たちが興味を持つイベントが少なかったり、自分たちが参加できるイベントが少ない。そういうことをワークショップの中でみんな声にするんですね。それから、「中学生が怖い、なのに大人は注意してくれない。」とか、「タバコをくわえて歩かれたら、私たちの顔の前にタバコがくるのに大人は知らんぷりする。」とかいろんな意見が出て、どちらかというとな大人の方が気づかされる状態です。その中で、特筆すべきは12ページにあります深堀地区、今、コミュニティのモデル地区は6地区でやっているの、6地区の取組みをここに載せているんですけども、その他にも自治会でいろんなことをやっていると思います。12ページにある「子ども会議」これはまさに、ワークショップの中から出てきた考え方で、子どもたちがまちづくりを話す場がない。学校ではそういう教育があったり、家庭ではまちのことを話すのはどうかと思うんですけども、地域の中で子ども同士でまちのことをこうしたいね、ああしたいね、未来はこうありたいねという場がないということから、その会長が、「よし、子ども会議をつくろう。」ということで、その時は、土井首まつりをどうしようかということでも話し合ったんですね。「じゃあ、私司会をやってみよう。」とか、「私お店屋さん（婦人部の店）に立ちたい。」とか。自分たちがしたいことをさせる時期ってやっぱりあると思うんですけど、それが、非常に地域の人に伝わって、中学生が仕切るのかと思うと小学生がその場を仕切ってるんですね。中学生はメモしなさいとメモしている。そういう地域の場合こそが、キャリア教育につながるのかなと、私が地域に出て感じておりますので、地域でもそういう活動がどんどん出てきています。ここに記載しているのは一例ですので、後でご一読いただければと思います。以上で報告を終わります。</p> <p>今、具体的にどういうことが長崎市の中で担い手を育成するという方向で取り組まれているのかという説明がありました。学校、家庭、地域が一緒になってそれぞれ役割を果たしながら担い手を育てていくという中で具体的な事例の説明でしたけれども何か具体的にはこういうことが行われていると同時に、また、担い手を育成するという意味ではこんな事業ができるんじゃないかということ、これから予算に向けても検討していく時期に入るわけですけども、今、具体的な事例の説明につ</p>
-----------	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

	<p>いても質問等ありましたらお願いします。</p>
委員	<p>市長部局の事業が事業名で言うと 11 事業、それから、教育委員会の方が重複しているのがあるので事業名だけでいうと 10 事業、トータル 21 事業あるんですけど、これは両方合わせて精査していくということになるのでしょうか。二本立てで走っていくのか。</p>
市長	<p>これはあくまでも取組事例としては例示をしているだけで、これ以外にもまだまだたくさんあるんですね。こういうのを事例として挙げてみるだけで、ここの部分が弱いかもしれないね、というふうなことが見えてきたり、あるいは、こんなこともできるんじゃないかとか、この部分の「例えば力を合わせる体験をする」というような意味合いではこんなことが学校でもできるんじゃないかとか、そういったことがこれから見えてくるかもしれないということで、具体的な事例として例示をさせてもらったところです。</p>
委員	<p>ひとつ質問してよろしいですか。確か中国の中山市だったと思うんですけども、修学旅行生との交流がありますよね。そういう交流はだいたいどのくらい回数行われているのですか。</p>
市長	<p>海外のという意味ですか。海外の子どもたちとの修学旅行を通じた交流ですか。</p>
事務局 (教育委員会)	<p>今資料は持ち合わせていないんですが、昨年度であれば 10 数回はあったと思います。主に中国、韓国ですね。来られた時は必ずいずれかの学校と交流。主に国際課からの紹介で学校教育課がつないで学校を紹介するという形です。毎年それくらいはやっているんじゃないかと思います。</p>
委員	<p>ハローイングリッシュの一環でのイングリッシュキャンプとか、外国の人と触れあうというチャンスというのは結構あると思うんですが、同世代の外国の子どもたちと意見交換的なものができるというのが、外を知るという意味では大切なのかなと。</p>
市長	<p>どこのまちでもそういうことが簡単にできるわけではないので、そういう意味でも長崎はチャンスがつかれるから活かさないといけないです</p>

		<p>ね。</p> <p>逆に、向こうに行ったりする子どもたちも、中国の子どもたちが英語がすごく上手だったとかいうようなこととかで、結構ショックを受けて帰ってきたりとか、もっとコミュニケーションとれるような英語の力を付けていこうという意欲につながったり、外の交流はそういう力がありますよね。中学生ぐらいだと結構、感受性が高いから。</p>
市	長	<p>他に表の中に具体的事例を今埋め込んでる状態なんですけど、こういうこともできるかもしれないですねみたいなことでもいいんですけど。これについてはヒントを出す場というか、何かありましたら。</p>
委	員	<p>ワールドカップの方は来年ですけど、それ以降は何か継続的にありますか。</p>
市	長	<p>そうですね。スコットランドとの関係はもともとグラバーさんのご縁があって、向こうもぜひ長崎でという話でまとまった縁なので、向こうもワールドカップの時だけではなくて、間にも交流をずっと豊かにしていこうということで、こっちも選手を連れて行ったり、向こうも、今年は連れてきたんです。前回、連れて行った時はコテンパンに負けたんです。今回は2試合して1勝1敗だったんですけど、選手にとっては外国の人と試合をするというのはお互いに初めてで、ものすごく刺激になったみたいでそこからまた頑張るやろうということにつながったし、本当にいい機会をもらっているんで、それをまた終わった後も続けていきたいなど。ラグビーばかりというのは行政としてはちょっと難しいところはあるんですけど、ラグビー協会が主体となってくれていますので、続いてほしいなと思います。</p>
市	長	<p>最近のニュースで、東京都がどこか民間の企業と組んで英語村をつくったというニュースが流れたんですけど。レストランの状況とか、交通機関の状況とか、そこでどういう会話をするのか、実際にそういう状況をつくって、そこ子どもたちが参加して、外国の人がいてやりとりをする。体験をするというしくみが始まったみたいなことをね。東京オリンピックに向けてでしょうけど。長崎のハローイングリッシュはある意味方向としては似ている。</p>
市	長	<p>これを見ると、先ほど地域の事例の紹介がありましたけど、まちを支</p>

	<p>える担い手をつくるという意味では地域がやっぱりどれぐらいそこを意識してやってくれるかどうかで随分差があって、地域によっては子どもたちをお客さんにするところもあるし、お客さんじゃなくてあなたたちもメンバーだから役割を担ってねという位置付けをして、片付けも一緒にしたりとか、その意識付けをすることでやっぱり実際の取組みが変わってくるので、先ほど整理したような方向性とかというのを地域も共有して、目標もシンプルなので、次の担い手をちゃんと子どもの時から育てて行きましょうというのをみんなで共有してすれば地域でもできることはまた増えてくると思うんですね。その辺を意識するまちでありたい。意識してバトンをつないでいくというそれが長崎市の教育大綱でもうたっている方向なんですよということが今回の議論の中でも随分見えてきたような感じです。</p>
<p>委員</p>	<p>先ほど子ども会議の例の説明があったんですが、方向性が長崎を支える担い手を育てる。そういう意味ではまさに担い手を担ったということで、こういう事例なんかは全地区に広げてもいいのかなと。これも、学校と家庭と地域で支えることになっているから、地域のところにそういうものがすべてあってもいいのかなという気はしますね。</p>
<p>事務局 (市長部局)</p>	<p>ワークショップで、人材不足とか担い手不足とか年齢の高い方はみんな言うんです。子どもたちはそこに参加して「私たちが居るのに」と言うんです。それで真ん中の世代が、「そうよね、あなたたちのためによかまちはつくらねばね。」と言って会話が成り立っていくので、まず、そういう多世代が集まる場があると気づいていって、こういう会議が持てるのかなというふうに思いますので、広げていくように努力したいと思います。</p>
<p>事務局 (教育委員会)</p>	<p>ここに教育委員会として挙げてる分以外に学校の方で様々な取組みはたぶんやっていると思うんですね。私が野母崎に行った時に、三和野母崎の商工会が独自の事業で「伊勢海老まつりに店を出しなさい」と中学生を集めて、商業の仕組みから教えて、どうすれば利益が生まれるかという辺りの説明から入って、最終的に売り上げが出るようにしなさいとゴールだけは示して、後は子どもたちに任せて、材料を仕入れるところから商品も自分たちで考えて子どもたちも取り組んでいる。もう2、3年やっていると思うんですけどすごく面白くて。赤字の補填は自分たちがやるからねと言っていたのでのびのびやっていますけど、</p>



	<p>結果的に毎年黒字を生んでいるという。そういうここに出てきてないような、学校独自、あるいは団体、商工会議所がやっているとかそういったものがおそらくあるんだろうと思うんですね。そういったのを一つにまとめるという作業もどこかで必要なのかもしれないという気がしています。</p>
<p>市長</p>	<p>一つ気になるのは7ページに図がありますよね。これは今までずっと議論しながら組み立ててきた図ですけれども、さっきの説明で市長部局が取り組んでいる事業、教育委員会が取り組んでいる事業、地域が取り組んでいる事業というふうな感じで説明したんですが、行政に関わる市長部局として行政が子どもたちにそういう場を提供できる部分というのもある、その分というのは担い手として、学校、家庭、地域という教育の3つの担い手の中で行政というのはどこに入ってくるのかなとこの図でちょっとよくわからないところがあったんですけど、行政も責任があって、役割もあるというような感じがするんですけども。これは、地域とか、家庭とか表の中に含まれるのかな。</p> <p>学校、家庭、地域というのはなぜ地域かということ、子どもたちがほとんどの時間をこの3つの場所で過ごすということがあって、それぞれの場所毎に持っている教育力が違うということがあって、この3つが連携してそれぞれの教育力を発揮したり、あるいは連携して一緒になって教育力をつくっていくことで、子どもたちが成長してくれるというそういう意味合いで子どもたちが過ごす時間がこの3つだからということからきてるといえるはあると思うんですけども。そういう意味でいうと行政というのはちょっと入ってこない感じになるので、家庭、地域、学校でという言い方をしていますが、それはそれで成り立っているんですけども、担い手とか責任があるという意味では行政、市長部局の方も責任があって、だからこそ、この総合教育会議でお互いにできることを探してやっていこうということをやっているんで、そういう側面から言うと、なんか抜けてる感じがするんですよ。</p>
<p>委員</p>	<p>2階建てになるんですかね。学校、家庭、地域の下ぐらいに。</p>
<p>委員</p>	<p>予算がかかってくると後ろに行政がないと全部いけないんですけど。</p>
<p>市長</p>	<p>予算もそうですし、実際、子どもゆめ体験とかそういうのは事務局でやっている事業なので、同じ方向を向いてやっていることはあるのかな</p>

<p>委員</p>	<p>と思うんですけど。</p> <p>自分でもよく整理がつかないんですけど、行政がどんなふうに関わるかというのは、今までいろんな部署からお話があったものそれぞれに自立していき活動がされているのを、特に政策監の地域の話では、ワクワクしながらすごいなと思って聞かせていただいたんですけども、その中で、なかなか上がってこない子どもたち苦しんでいる子どもたちも実際にいるんですね。不登校の子どもたちというのは、家庭の中に引きこもって親も子も苦しんでいるという状況の子たちをどうやって地域のそういう生き生きした活動の中で楽しい体験をさせることで自信をつけてもう一回学校に行ってみようかなと、それで学校に行くと、学校って楽しいところだったんだなって実感してもらう。そういったそれぞれの場所で苦しんでいる人たちを引き上げるのに行政の力を発揮していただければと思うんですね。リーダーシップを反面では取りながら下支えをすとか、先ほど政策監がワークショップの自立した話を聞きながら、たぶん、いきなり最初から地域がそういうふうなことができたわけではなくて、行政の支えがあってこういう方法があるんですよということをして、今の楽しいワークショップで担い手、主体性を持った子どもたちが育ってきていると思うので、そういう光の当たる部分だけじゃなくて、苦しんでいる子どもたちにも行政という立場から、上から目線ではなくて、現場を支えるという形でそういう子たちを楽しんでいるように思えるようなところへ引き上げていただければ嬉しいなとそれが一つは行政の役目としてお願いしたいところです。</p>
<p>市長</p>	<p>そういう意味では、学校、家庭、地域って3つ書いているのはさっきの前半でまとめた方向性の中にも学校、家庭、地域というのが出てくるんですけども、これは子どもたちのこういう場でこういう力を身に付けて行くという整理にして、行政は全体に関わるのでそういう前提で整理しましたとなるんですね。今の不登校の子どもたちのお話なんかでも必ずしもこのキャリア教育という部分だけではなくて、あらゆる部分に関わってきますので。</p>
<p>委員</p>	<p>これが具体的に整理されてまとまってからのことになると思うんですけども、今これが横並びになってますので、これを小学校低学年、中学年、高学年、中学生と発達段階に応じてこれをどう位置付けるかみたいな縦の構造化を図って、実際に学校ではこれをどこかに入れないとい</p>

	<p>けないので、この内容はどの学年がいいよとか、同じような体験も中身次第で低学年、中学年、高学年と違ったりするので、そういう構造化をこれから実施するにあたっては図っていかないといけないのかなと思います。</p>
市長	<p>そういうのがあるといいですね。</p> <p>長崎の子どもたちは、中学校を出るところになると、みんな自分もまちの中では何か貢献するものだと思うそんな流れができるといいですね。</p>
市長	<p>そしたら、その辺の取組みの整理とか、それからまた新しくこういうこともできるかもしれないとか、一度にたくさん増やしてもまたパンクすることもあるでしょうから、来年度に向けてこんなこともやってみたいというような具体的な事業計画については、今後のそれぞれの部局の中でこの方向に沿って何が貢献できますかとか予算に向けて整理をするということによろしいでしょうか。</p>
市長	<p>長崎市版キャリア教育について、このキャリア教育という言い方についても議論の中で相当ありましたよね。いわゆるキャリア教育、職業教育というのはまたこれとは別にやるという意味でも名前の呼び方の長崎市版キャリア教育という呼び方も変えた方がいいですよ。随分オリジナルな形になってきてるので、ネーミングを考えて、ネーミングによって共有のされ方が随分違うので、わかりやすいネーミングになると、「ああ、そういうことをみんなで今やろうとしてるんだ」ということが共有できますので、ネーミングも是非次回までにもし案があれば考えていただければと思います。</p>
市長	<p>では、次の(2) その他に移りたいと思いますけれども、何か、今のキャリア教育関係以外のことで、例えばこういうことも今後議論の対象にしていきたいですねとか、何でもいいんですけれども、ご意見があったらお願いします。</p>
委員	<p>先ほどの委員の話の関連なんですけれども、学校へ行けない子どもたちが、学校へ行けないというだけで自分を責めている。親も自分の育て方が悪かったんじゃないかと自分を責めてる方が多いんですけれども。別の生き方もあるよ、学校へ行くだけじゃないよみたいなもう少しそういう子たちもこんな居場所が長崎にはあるんだよみたいなそういうこと</p>

<p>事務局 (教育委員会)</p>	<p>は学校からは発信などはありませんか。</p> <p>学校からはしていません。適応指導教室とかそういう発信はして ますけれども、こういうところにフリースクールがあるよというこ は、学校としては今のところ発信はしてありません。</p>
<p>事務局 (教育委員会)</p>	<p>今後そういうところも必要になってくるかもしれないです。不登校 の子とかそういう子たちに生きる力を身に付けさせるためには学校だけ じゃないという部分で、そこでやっぱり生きる力を身に付けさせながら 自立を支援していくという場所が必要だとは思いますが、今後やっ ぱりその辺りを考えていかなければいけないと思っています。</p> <p>今のところは積極的にここにフリースクールがあるからどうですかと いう投げかけは学校からはしていません。</p>
<p>事務局 (教育委員会)</p>	<p>不登校に対する考え方というの、法が変わったり、国の方もかつ ては学校復帰というのが目標だったんですが、社会復帰という大きな目 標を掲げて、学校に行けない子たちはそこも学びの場所としての保証を しなさいという方向に今変わってきています。これまでフリースクール は学校復帰を目指していないので公的には認めにくいというふうなこと だったんですけど、今後はその辺りも少し意識を変えていかなければ いけないんじゃないかという話は教育委員会内部でもしているところ です。担当部署は教育研究所なんですけど、昨年度からフリースクールと連絡 協議会みたいなをつくって、まずどこに何があるのかというのを含め て、私たちもそういう状況を掴んで来れない子たちの居場所づくりとい うところも公的なサポートとして大事なかなと考えてますので、そう いったものができると学校からも発信ができるような状況になって くるんじゃないかと、今その辺の整理をしているところです。</p>
<p>委員</p>	<p>関連していいでしょうか。教育機会確保法ができて、今おっしゃった ように必ずしも登校を目指さないという他の生き方もあるよというそれ を保証しましょうということで、今、どこの中学校だったかな駅前いき いき広場に来ている中学1年生ぐらいの子なんですけど、内容次第では 登校に数えたいのでプログラムと中身を教えてください。結果的には 今のところダメなんですけど、というのは、一施設だけがOKではまち まちなので、県全体で同じ基準に基づかないといけないということで、 県教育センターがやってくれば一番だと思うんですけど、そう</p>

	<p>いう統一を図らなければせっかくそういう気持ちがあっても救いの手が伸びないよねということで、この会議でやることではないと思うんですけれども。不登校はとて多いので社会で自立できるようなことを図って。義務教育だから中学さえ卒業したら高校は行かなくてもいいんですよね。不登校だったけど大学は行ってるよという子はたくさんいて、職業に結びついている子は結果的にはたくさんいるので、その辺をサポートしてあげるような仕組みになればいいなと思っています。</p>
市 長	<p>教育委員会の中で議論されたりするんですか。</p>
委 員	<p>当然そうなりますよね。どんなプログラムでどんなことをという。</p>
委 員	<p>6月議会の時に市長の方からパートナーシップ制度の取組みのことでお話があったんですけど、福岡で実際に起きてる事例みたいなんですけど、見た目は女の子の人が制服がスカートで、それがために登校したくないという事例があったと。長崎もおそらくこれから色々としていかなければいけないことではないのかなという気がしているんですけど。私自身話を聞いて驚いたんですが、各クラスに1人ぐらいはそういうお子さんがおられると、AB型の血液型とか左利きの人と同じような割合でそういう方々がおられるという話を聞いたものですから、今後、教育現場などでもそういうことに対しての対応なども考えていかなければいけなくなるんだろうなと思いました。</p>
市 長	<p>その辺も学校の中でも話題になっていることの一つですよ。</p>
事 務 局 (教育委員会)	<p>そうですね、いわゆる LGBT に対しての指針というのも国の方から出されておりますし、実際そういう子がいた時の対応というのはこうしなさいというふうなマニュアルみたいなものができています。具体的にはいわゆるトイレは多目的トイレを使うとかですね、水泳の時の申し出があった時はどうするということで、教員の研修もやってる状況です。委員がおっしゃたように、もし制服を女子が学ランでしか登校できないという場面が今後出た時に、具体的にどうしようかという話を現実的にやってる状況です。おそらく、そうなったら認めるということでいくんじゃないかと。まだ事例は出てませんが、そういったレベルでの話は校長会等でしている状況です。</p>

事務局 (教育委員会)	<p>まずは、そういう性格を持っているということをしっかり言えるような環境づくりが大事じゃないかなと思うので、そのところも校長会、あるいは研修会などでもそういう学校をつくってください、教室をつくってくださいという話はしているところです。</p>
市長	<p>多様性の話、外国人の人たちでもそうですが多様性になるべく柔軟に対応しようというのは長崎は長いですよ。</p>
委員	<p>長崎の一番の強みじゃないのかなと思います。多様性ウエルカムみたいなところは。ぜひ日本の中でも他の自治体に先駆けてどんどんそういうことに取り組んでいってほしいと思います。</p>
市長	<p>その辺は本当意識して全国はどうだから、文科省がどうだからというのではなくて、そういう場を過ごしやすい環境をつくっていかうというのは積極的に取り組んでほしいと思います。</p>
委員	<p>前にも申し上げたことあると思うんですけど、先生方の働き方改革というのが気になっていて、この前ちょっとインターネットでしたかデータがいろいろつながっていくというのがありましたけど、もう少し合理化して負担がないような形で何か模索できないのかなというふうに思います。</p>
市長	<p>それもかなり大きな大事なテーマですよ。</p>
教育長	<p>9月議会での統合型校務支援システム、あれだけですべて解決するわけではないんですが、根本的なところ部活をどうするのかとか、中学校の負担が大きいので。県も取り組んでいращやるので、連携しながら抜本的に変えないといけないかなと考えます。</p>
市長	<p>そういう仕組みとして変えていくという部分もあるでしょうし、地域を含めた意識を変えていくという面でも、先生たちが仕事を増やすことで、子どもたちの環境が良くなっていくそういうのもいるでしょうし、何かをすれば解決するという話でもない。それでもやっていかないと変わらない。本当、今一番注目されているというか大事なテーマの一つです。見ていて変えた方がいいなと思われたところがありますか。</p>

委 員	<p>疲弊されている先生方が多いんじゃないかという気がするのですが、しかも、先ほど教育長がおっしゃったように変えようとするのが抜本的にいろいろ変えて行かないといけない。意識もそうだし、システムもそうだしとなると時間がかかると思うので、ちょっとずつ議論していった方がいいのかなという気がします。</p>
委 員	<p>やっぱり思いますね。システムだけではとても、保護者の方には部活が大変だといっただけでうちにいると何するか分からないし、ゲームばかりしてるから部活に行ってくれた方がいいとかいう方も結構おられる。保護者の方や、地域の方が見守ってあげるような全体がそういう意識を持たないとなかなか変わりにくいのかなと思います。</p>
市 長	<p>公民館とか、ふれあいセンターとかそういうところで勉強してる子どもたちがかなりいますよね。勉強する場所を探してるような、昔は家でしてたんですけど家で勉強をしなくなった、しにくいんでしょうか。</p>
委 員	<p>市の図書館に行っても教科書出して一生懸命勉強していますね。</p>
市 長	<p>全国的な傾向ですよ。そういう変化の中でどの部分に手を付けて行こうと、そういう変化に対応が遅れすぎないようにしないといけないので、またこの総合教育会議でも一度には無理ですけど、一つずつ取り上げながら進んでいければと思います。</p> <p>先ほどの議題キャリア教育の件ですけど、先ほど予算に向けてという言い方をしたんですが、予算に向けてという言い方をするとどうしても新しく事業をつくらないといけないとかそういう発想になるんですが、そういうことではなくて、もちろん事業は必要であればつくっていいんですけど、それよりも今はまず長崎市全体で担い手を育てて行くということをみんなで共有するというのが大事なので、それが全然共有されずに事業だけが増えていったら地域の参画も得られないということになります。そういう意味ではまず共有することが大事で予算をかけなくてもできることがあるかもしれないので。</p> <p>この地域コミュニティの動きの中でもそういう動きが実際にされて、子どもたちがたくさん参加してくれています。立派な取組みだと思いますし、そういう意味では、あまり事業にこだわらずとにかく担い手を育てるまちになるためにまずここからやっていますという部分を見つけ</p>

市	長	ていくというふうに考えてもらえば。よろしいでしょうか。
市	長	他に何かありませんか。
市	長	では、これで今年度第2回目の長崎市総合教育会議を終了します。お疲れ様でした。
		<b>【10：56 閉会】</b>